

『SEED 総合英語 [四訂新版]』の教科書指導における活用法

文英堂編集部

[英語表現 I]

いよいよ来年度より新しい高等学校学習指導要領に沿った教科書が使用されます。そのうち「英語表現 I」の教科書は文構造・文法を定着させようで、会話やライティングなどの活動につなげるという構成が多いようです。表現活動には基礎的な文構造・文法の理解・定着が欠かせないということでしょう。

弊社発刊の『SEED 総合英語 [四訂新版]』も新しい高等学校学習指導要領に沿って改訂し、単に文構造・文法を解説するのではなく、表現活動につなげていただけるよう工夫しました。以下『SEED 総合英語』を教科書『グローブ英語表現 I』のご指導の際に活用していただく方法をご紹介します。

①「イメージをつかもう」で文法概念を理解させる

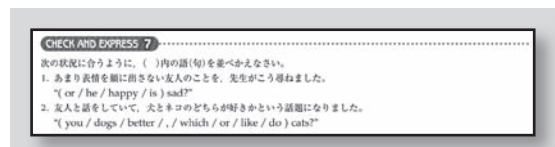
『SEED 総合英語』では、各章の冒頭に「イメージをつかもう」というその章で学ぶ文法事項の解説を収録しています。四訂新版では2ページから3ページに増やし、写真やイラストを多用し文構造・文法概念をよりわかりやすく解説しました。たとえば『グローブ英語表現 I』 LESSON 3 では時制 [現在] と現在進行形を扱っていますので、教科書に入る前に『SEED 総合英語』の p.71 にある「イメージをつかもう」を読んでおけば、現在形と現在進行形の違いを理解したうえで問題に取り組むことができます。



『SEED 総合英語』 p.71 第3章

② 会話文を使って文法項目の定着を確認

『SEED 総合英語』の各文法項目の最後には CHECK AND EXPRESS という確認問題があります。前の版では空所補充など文法事項を定着させるための問題が中心でしたが、四訂新版ではある状況に合うよう英文を完成させる問題といったより自然な英文で文構造・文法事項を確認・定着させることができるようにしました。



『SEED 総合英語』 p.35 §7 or を含む疑問文

同様に、教科書『グローブ英語表現 I』には、各課に TALK WITH A PARTNER というコーナーがあり、パートナーと自由に話し合う会話形式の問題で文構造・文法の定着を図ることができます。教科書と『SEED 総合英語』を併用することで会話形式の問題に抵抗なく取り組むことが期待されます。



『グローブ英語表現 I』 p.17 LESSON 4 時制 [過去]

このように「英語表現 I」教科書をご指導される際に『SEED 総合英語』を併用していただくことで、教科書の文構造・文法事項の理解や表現活動をスムーズに行うことが期待できます。『グローブ英語表現 I』の教授資料付属 CD-ROM に教科書の例文が『SEED 総合英語』のどこで扱われているかを掲載した「提出シート」をご用意する予定ですので、ご活用いただければと思います。